

地場産品と林業の先進地へ！

平成30年6月25日～同27日の日程で、島根県海士町の「産業の創出、及び移住・定住対策について」、鳥取県日南町の「林業従事者の育成・確保、及び山林資源の有効活用について」の視察・研修をしました。

地場産品のブランド化と ～島根県海士町～ 移住・定住対策を

6月25日午後～26日午前中にかけて、島根半島の沖合60kmにある海士町(中ノ島は周囲89.1km、人口2293人)で、地場産品のブランド化と移住者の移住・定住について研修・視察しました。



海士町「島の駅」にて

総務教育常任委員会
副委員長 森 治史

島の生き残りかけて

超がつく過疎、少子高齢化、財政悪化により島が消えるとの思いから平成16年3月に島の生き残りをかけた「海士町自立促進ブランド」が策定された。住民代表と町議、行政が一体となり、守りと攻めの両面からの取り組みを始める。「自らの身を削らない改革は支持されない」との信念により、平成17年に職員組合との合意の下で給与削減をする。

三役が40～50%、議員と教育委員が40%、区長は約2億円。それを子育て支援として結婚祝金10万円、すこやか祝金(出産)1人目10万円、2人目20万円、3人目50万円、4人目以上100万円(3回に分けて)支給されています。

います。



海士町菱浦港



地場産品ブランド化

攻めとしては平成4年に西の島で天然岩ガキの種苗採取に成功。その養殖では10年間試行錯誤の末、平成10年に生産組合を立ち上げ、現在では3月～5月にかけて3年物の岩ガキ50万個をブランド名「いわがき春香(はるか)」

「いわがき春香」のつり込み準備中です



として築地市場等へ出荷しています。

特産品の白イカは絶対鮮度を保ち、流通の不利な条件を克服するために自治体では初めて細胞を破壊しない新冷凍技術のCAS2基(1基500万円)を導入。総額5億円をかけて旧フェリー乗場へCAS凍結センターを構築し、平成17年から稼働させています。

島生れ島育ちの「隠岐牛」の取り組みは構造改革特区を導入することにより農地規制緩和がされ、U・Iターン者6名が

繁殖和牛に新規参入。また島内の建設業2社も畜産業に参入しました。平成16年に銀座へ隠岐牛中心の高級和食店を開店。平成26年には161頭出荷、1頭の平均価格は92万円とのこと。

移住・定住対策

島内の在住や移住の若者の定住のために妻帯者、単身者向けの町営住宅を200戸建築していて、家賃は応納ですが2～3万円が多いとのこと。

基本は集落内の空家に住んでもらい、出役や祭りに参加し、地区住民と一緒に汗を流すことで集落に認められ、溶け込んでいくこととなります。移住者に求めるのは会社の最低のマナーを持ち、自らのステータジを創り、島にはなかった新しい考えで頭角を現し、リーダーになれるタイプの方達とのこと。「人と自然が嫌いな方の定住は難しいです」と吉元副町長は話されました。